

2. 健康状態

■ HIV 検査が行われた場所

「HIV 陽性であること（可能性）をあなたが初めて知った／知らされたとき」に HIV 検査が行われた場所は、図 2-1 のように、Futures Japan 第 1 回調査結果・第 2 回調査結果と概ね同じ結果となり、過去 2 回の調査同様に検査が行われた場所は多岐にわたっていました。第 3 回調査結果の中でその他 1.1% に回答された場所は、常設ではない保健所、治験、留置所などがありました。

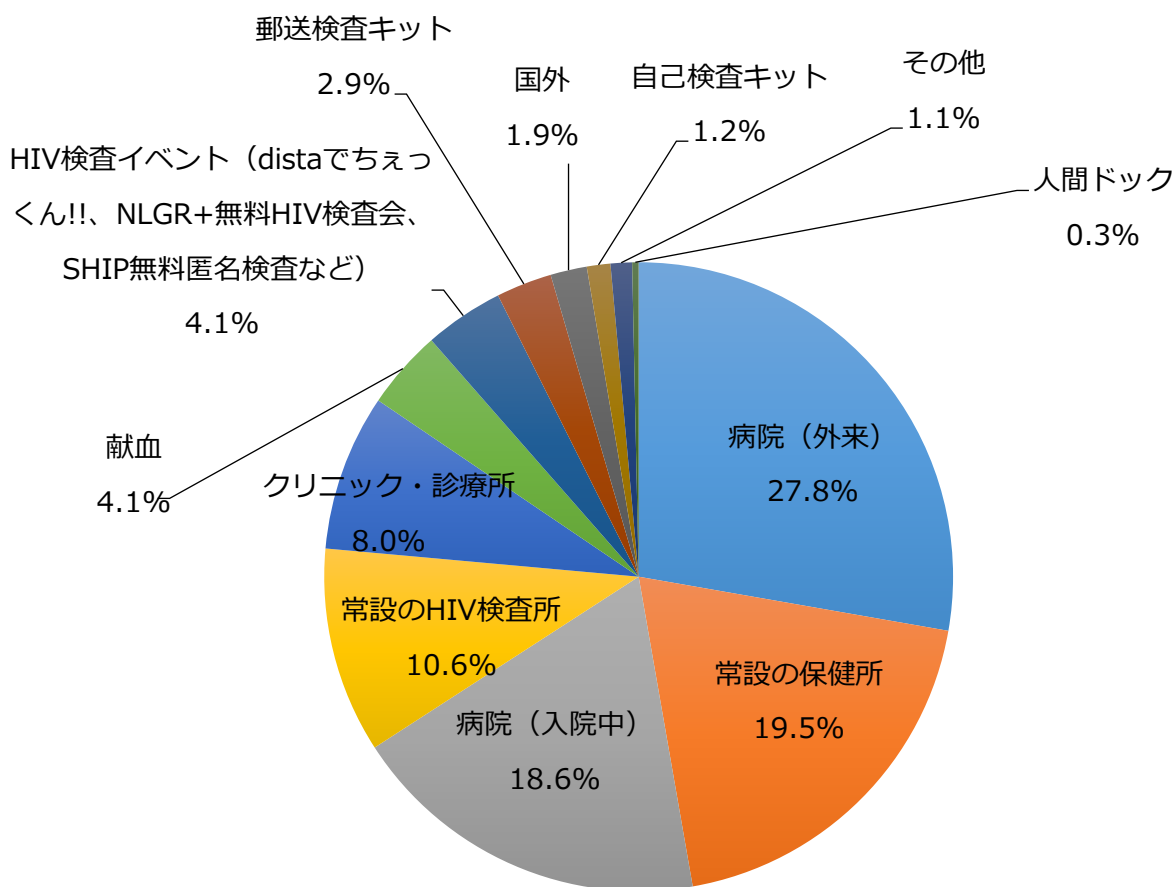


図2-1 HIV陽性であることを初めて知った検査の場所（n=908）

■ HIV 検査を受けようと思ったきっかけや理由

HIV 検査を受けようと思った理由で最も多かったのは、図 2-2 のように、体調の悪化 323 人（35.6%）でした。続いて、医師など医療関係者に検査を受けることを勧められた 168 人（18.5%）、感染したと思われる行為があった 168 人（18.5%）、エイズ発症や関連疾患らしい症状があった 167 人（18.4%）、他の性感染症にかかった 104 人（11.5%）、定期的に検査を受けていた 100 人（11.0%）、他の病気や手術に伴い血液検査を受けた 79

人（8.7%）などの理由が回答されていました。

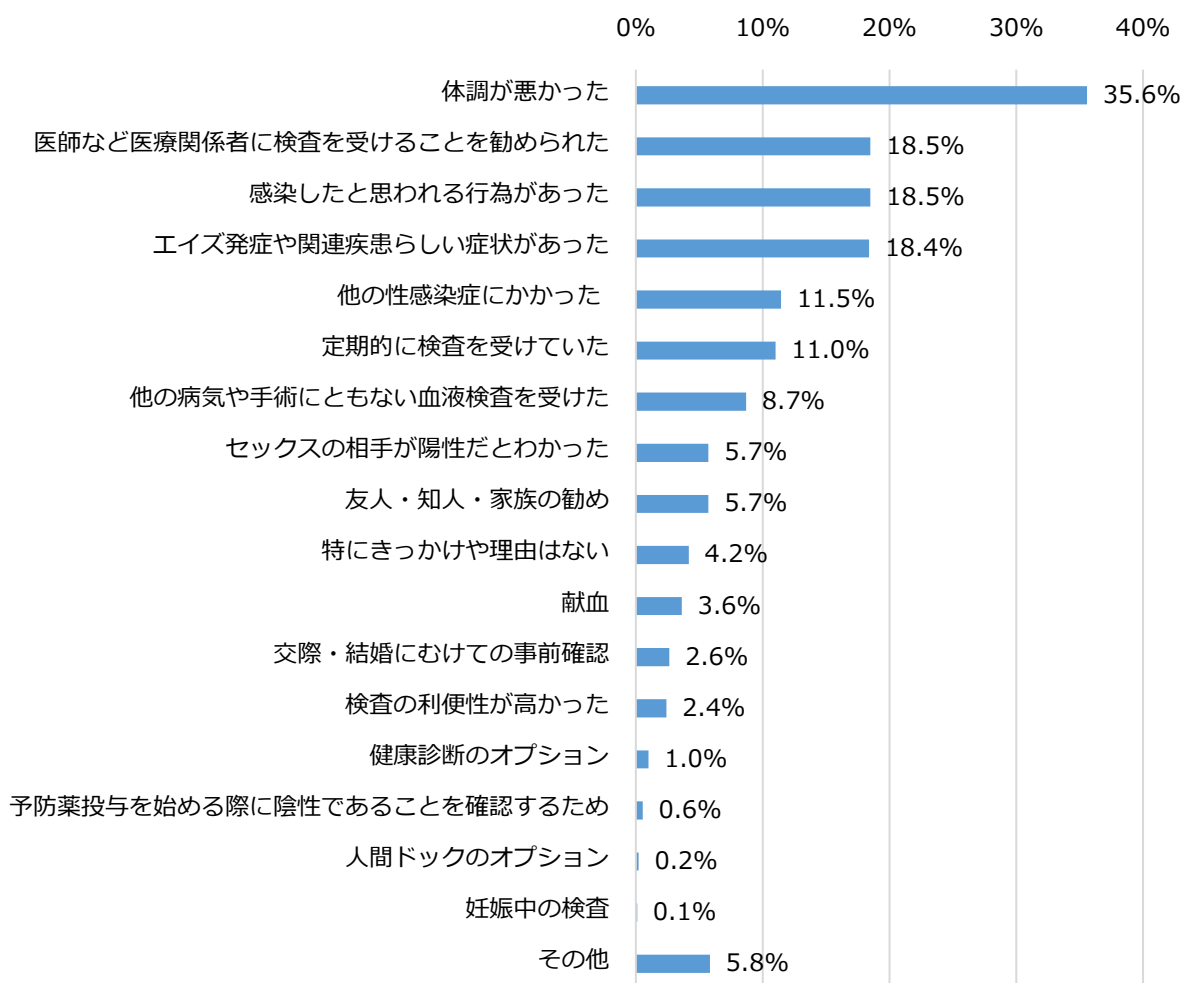


図2-2 HIV検査を受けようと思ったきっかけや理由（複数回答）n=908

■ HIV 陽性であると最終的に確認した検査の場所

明確に HIV 陽性であると最終的に確認した検査の場所は、図の 2-3 のように病院の外来が約半数 440 人（48.5%）を占めていました。その他残りの半数も、病院（入院中）182 人（20.0%）、常設の保健所 130 人（14.3%）、常設の HIV 検査所 63 人（6.9%）、クリニック・診療所 54 人（5.9%）、HIV イベント 17 人（1.9%）など多岐にわたっていました。第 3 回調査結果の中でその他 0.8%に回答されていた場所は、N P O の検査所、常設ではない保健所、精度の高い郵送キット、献血などがありました。

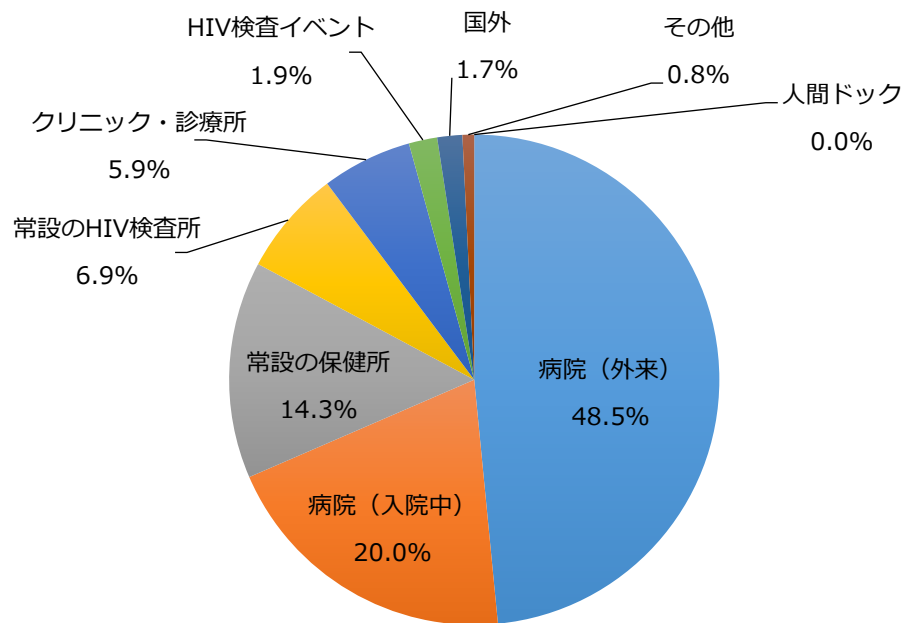


図2-3 明確にHIV陽性であると最終的に確認した検査の場所（n=908）

■ HIVであると最終的に確認した検査を受けた都道府県

明確に HIV 陽性であると最終的に確認した検査を受けた都道府県の上位 4 県は、図 2-4 のように、Futures Japan 第 1 回調査結果・第 2 回調査結果と同じ結果となり、東京都 362 人（39.9%）が一番多く、次いで、大阪府 122 人（13.4%）、愛知県 52 人（5.7%）、神奈川県 51 人（5.6%）の順になりました。第 3 回調査結果では、国外で検査を受検したと回答した人が 16 人と第 1 回調査結果（7 人）・第 2 回調査結果（9 人）と比べ増加していました。



図2-4 明確にHIV陽性であると最終的に確認した検査を受けた都道府県 (n=908)

■ HIV 陽性であることを初めて知った／知らされたときから、医療機関で HIV の診察を受けるまでの期間

HIV 検査「HIV 陽性であること（可能性）をあなたが初めて知った／知らされたとき」から、医療機関（病院や診療所）で、HIV での診察を受けるまでの期間は、図 2-5 のように、全体の 8 割以上の方が 1 か月以内に診察を受けたと回答していました。

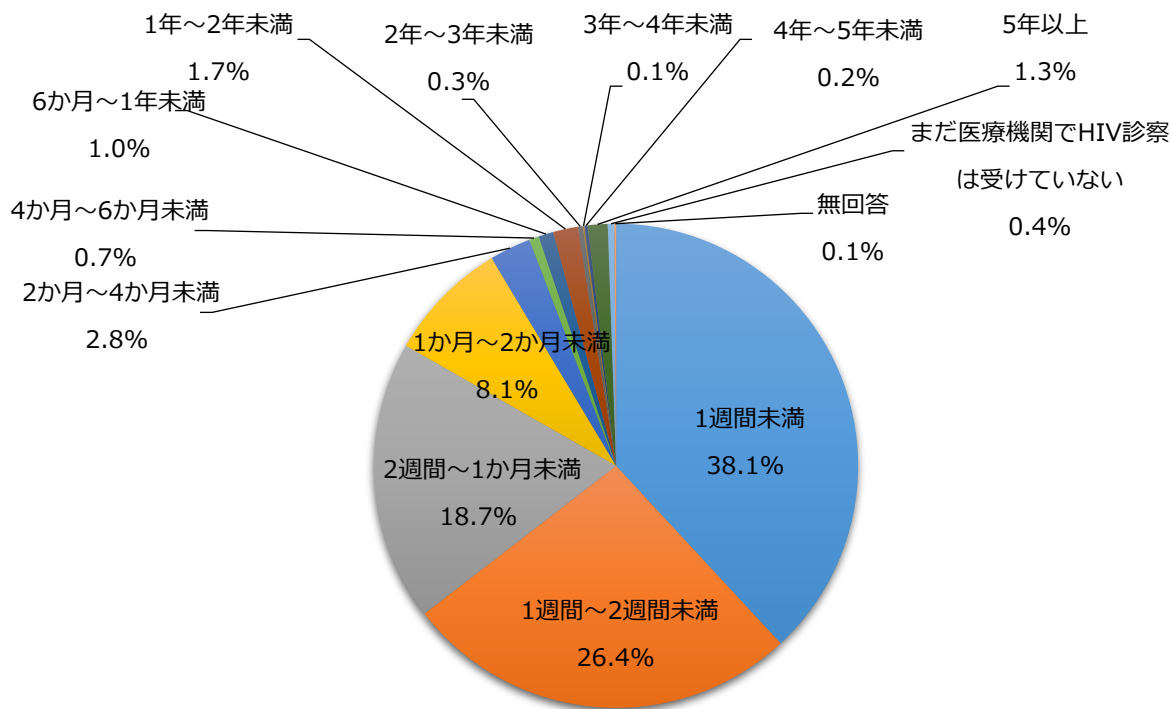


図2-5 HIV検査から医療機関でHIVの診察を受けるまでの期間
(n=908)

■ 郵送検査キットを活用した場合のその後の行動

HIV 陽性を知ることになった検査方法で郵送検査キットを活用した 26 人のその後の行動は、表の 2-1 のように、約 7 割の方が医療機関への受診行動につながっていました。

表 2-1 郵送検査キットを活用した方のその後の行動 (複数回答)

郵送検査キット活用後の行動	人数	%
医療機関（病院や診療所）を受診した。または受診する予定でいる。	18	69.2%
確認検査を受けに行った。または行く予定でいる。	9	34.6%
特設検査相談所や相談窓口へ行った。または行く予定でいる。	1	3.8%
電話相談を受けた。または受ける予定でいる。	0	0.0%
インターネットでいろいろ調べた。または調べる予定でいる。	12	46.2%
陽性が判明しその後の案内があったが、そのままにしている。	1	3.8%
陽性が判明したが、その後の案内も無くそのままになっている。	1	3.8%
その他	0	0.0%

■ 自己検査キットを活用した場合のその後の行動

HIV 陽性を知ることになった検査方法で自己検査キットを活用した 11 人のその後の行動は、表 2-2 のように、約 6 割の方が医療機関への受診行動につながっていました。

表 2-2 自己検査キットを活用した方のその後の行動 (複数回答)

自己検査キット活用後の行動	人数	%
医療機関（病院や診療所）を受診した。または受診する予定でいる。	7	63.6%
確認検査を受けに行った。または行く予定でいる。	4	36.4%
特設検査相談所や相談窓口へ行った。または行く予定でいる。	3	27.3%
電話相談を受けた。または受ける予定でいる。	0	0.0%
インターネットでいろいろ調べた。または調べる予定でいる。	1	9.1%
陽性が判明しその後の案内があったが、そのままにしている。	0	0.0%
陽性が判明したが、その後の案内も無くそのままになっている。	0	0.0%
その他	0	0.0%

■ HIV 検査の経験から気づいた問題点や改善点

自身の HIV 検査の経験からお気づきになった問題点や改善点の自由記載欄には、376 人がコメントを記載していました。その中で「なし」や「とくになし」を除いたコメント

の記載は 276 件であり、検査時の対応が良かったや検査を受検した経験がプラスになったなどのポジティブなコメントの記載内容が 17 件見られました。

何らかの課題や問題点に関するコメントの 259 件を表 2-3 のように、内容別に 8 項目に分類しました。

259 件の中で、医療従事者や施設に関する内容は 64 件で、その多くが告知時のプライバシーに関する内容でした。保健所に関する内容は 21 件で、その多くが告知時のスタッフの対応に関する内容でした。その他の項目として、情報の不足に関する内容や医療機関との連携に関する内容などが見られました。他に検査へのアクセスに関する内容は 35 件で、保健所などの開所時間の制限や検査キットの費用負担などに関する内容があげられていました。

表 2-3 自己の HIV 検査の経験から気づいた問題点や改善点

項目	課題や問題点	件 (259)
1	医療従事者・施設の対応	64
2	保健所の対応	21
3	献血時の対応	3
4	情報の不足	9
5	検査後の医療機関との連携	12
6	検査へのアクセス等	35
7	受検時や結果を待っている間の不安	11
8	受検前後の経過や体験・その他	104

■ HIV 感染経路

HIV の感染経路は、図 2-6 のように、Futures Japan 第 1 回調査結果・第 2 回調査結果と概ね同じ結果となりました。第 1 回調査結果・第 2 回調査と比較すると、第 3 回調査の結果では注射針の共用 (0.1%) と回答した割合が減少しました (第 1 回調査 : 1%、第 2 回調査 : 0.8%)。

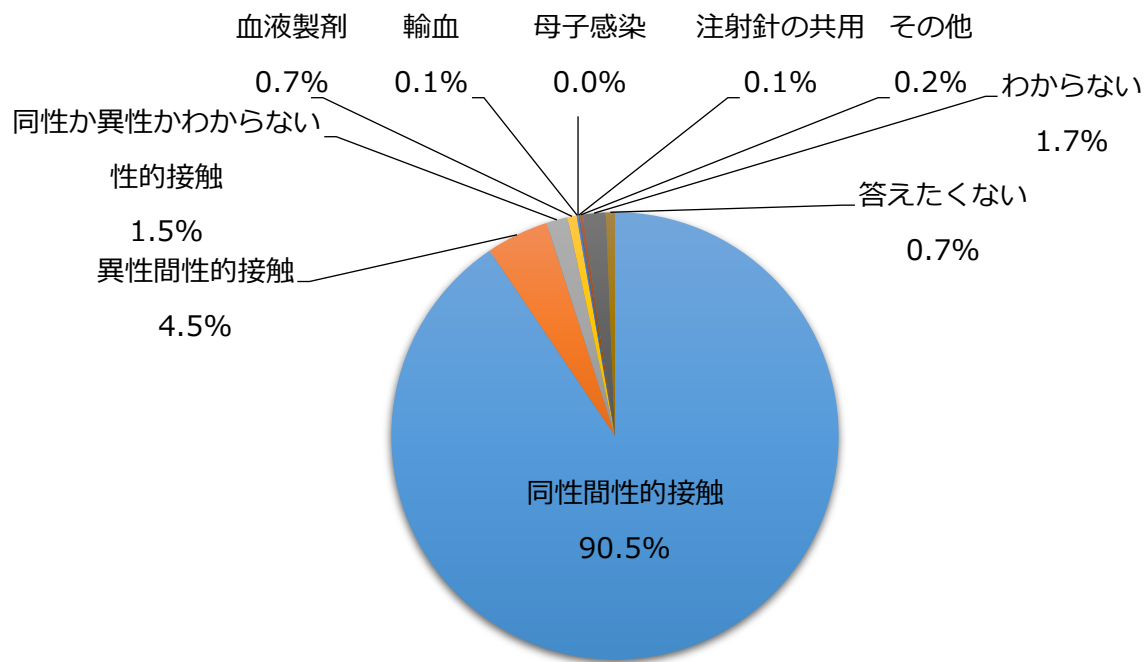


図2-6 HIV感染した経路 (n=908)

■ 慢性疾患の罹患

慢性疾患の罹患についてたずねたところ、図 2-7 のように、Futures Japan 第 1 回調査結果・第 2 回調査結果（図の「1 回目」= 第 1 回調査結果、「2 回目」= 第 2 回調査結果）と同様にアレルギー疾患（アトピー性皮膚炎、花粉症など）226 人（24.9%）が一番多く、次いで高脂血症 113 人（12.4%）、高血圧症 107 人（11.8%）、精神・神経疾患 104 人（11.5%）、ぜんそく・気管支炎 78 人（8.6%）と続きました。一方、慢性疾患はないと回答したのは 352 人（33.9%）でした。慢性疾患の罹患を前回調査と比べると、高脂血症、高血圧症、糖尿病が増加傾向にあり、肝炎は減少傾向にありました。

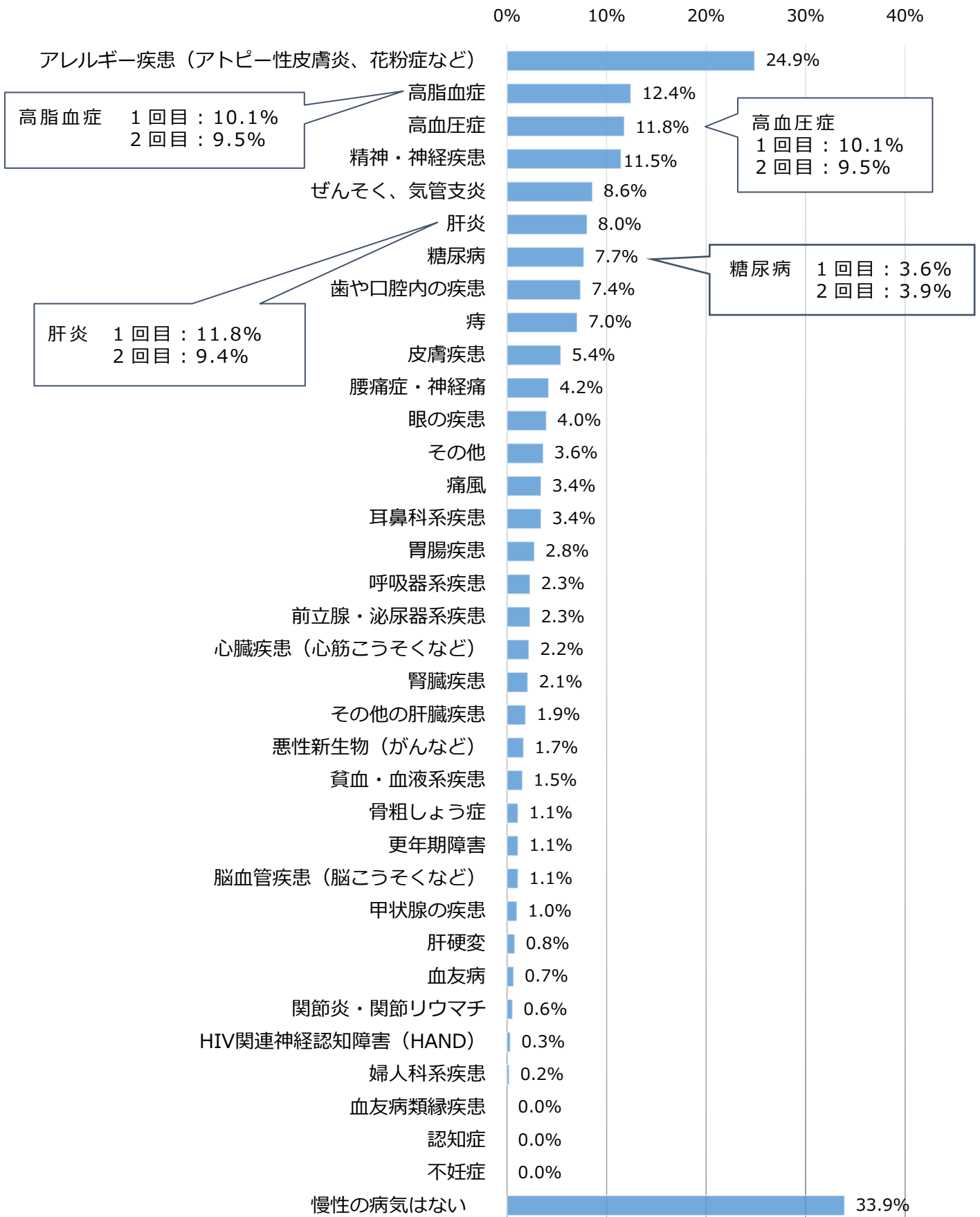


図2-7 慢性の病気 (複数回答) n=908

■ 慢性疾患の治療のために定期的に受診をしている医療機関

慢性の病気で定期的に受診している医療機関については、図 2-8 のように HIV 感染症で受診している医療機関で見てもらっていると回答したのが 54.3%、HIV 感染症の治療で受診している医療機関以外の医療機関のみで診てもらっていると回答したのが、20.2%、HIV 感染症の治療で受診している医療機関とそれ以外の医療機関の両方で診てもらっていると回答したのが、15.8%、治療していない・医療機関を受診していないと回答したのが 9.5%でした。

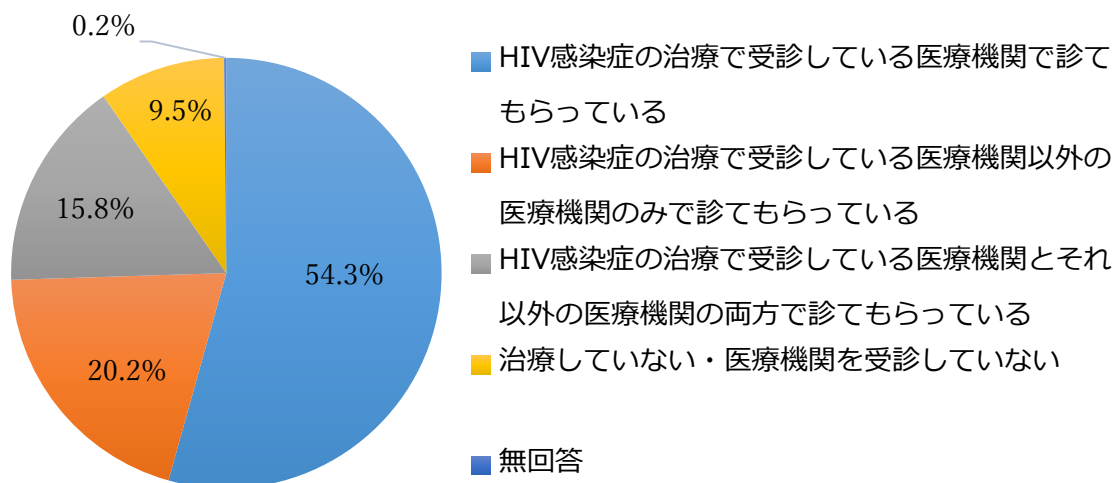


図2-8 慢性の病気で受診をしている医療機関 (n=600)

■ 病気やけがなどの自覚症状

ここ数日の病気やけがなどによる自覚症状について、46 項目を示してあてはまるものを複数選択してもらったところ、図 2-9 のように自覚症状がひとつもないと回答したのは 276 人 (30.4%) であり、その他はいずれかの自覚症状を訴えていました。自覚症状として多かったのが、肩こり 244 人 (26.9%)、体がだるい 171 人 (18.8%)、眠れない 125 人 (13.8%)、いらいらしやすい 117 人 (12.9%)、かゆみ(湿疹・水虫など) 114 人 (12.6%) でした。Futures Japan 第 1 回調査結果・第 2 回調査結果と比べると体がだるいが減少傾向にありました (第 1 回調査結果 : 30.3%、第 2 回調査結果 : 25.8%)。

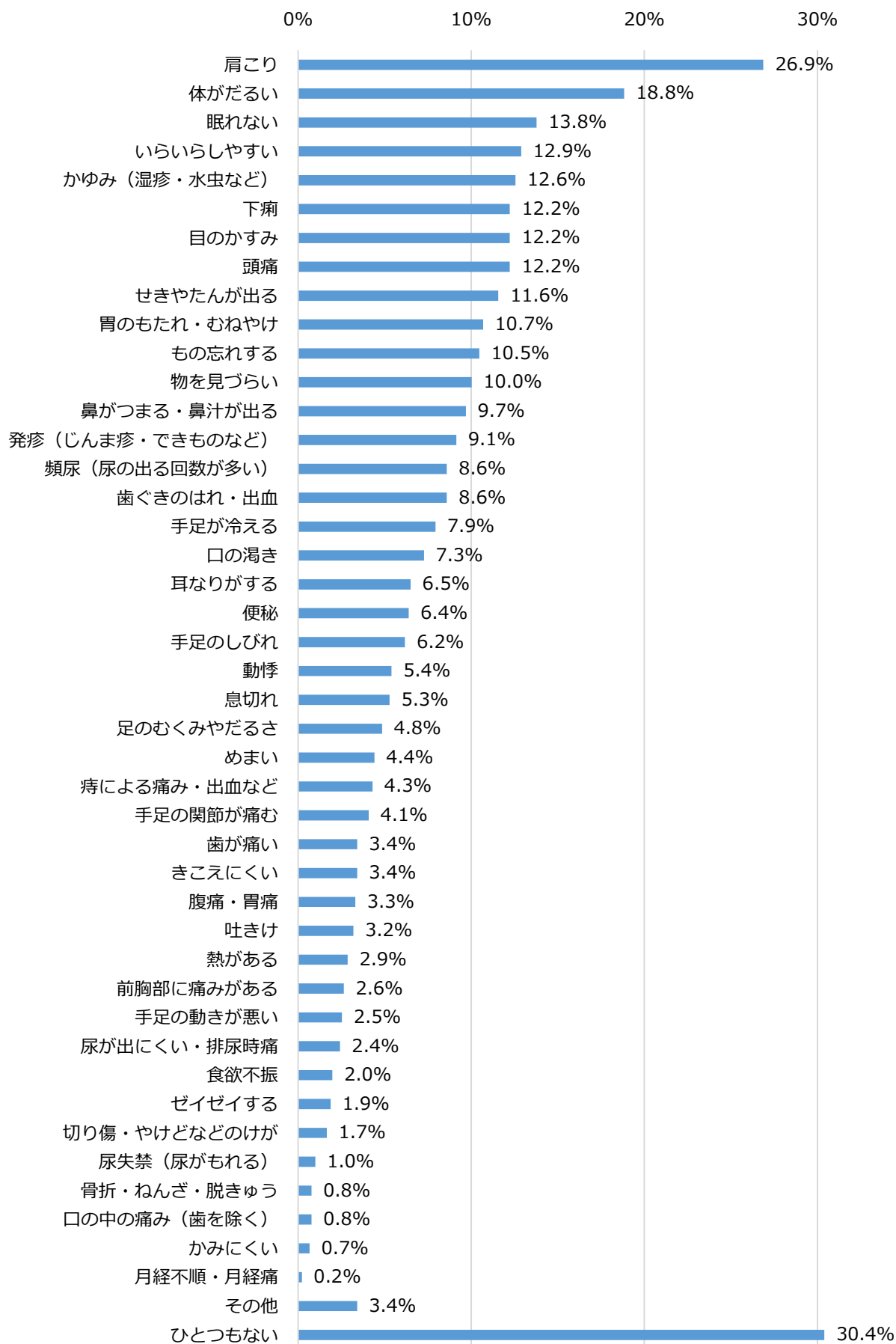


図2-9 病気やけがなどの自覚症状（複数回答） n=908

■最も気になる症状

病気やけがなどによる自覚症状の中で最も気になる症状をひとつ選択してもらいましたが、上位にあがっていたのは、体がだるい 69 人 (11.0%)、肩こり 50 人 (7.9%)、眠れない 40 人 (6.3%)、発疹(じんま疹・できものなど) 36 人 (5.7%)、腰痛 33 人 (5.2%) でした。

参考までに、2019 年の一般住民対象の国民生活基礎調査の結果(入院者は含まない)では、男性では腰痛、肩こり、鼻がつまる・鼻汁が出るが、女性では肩こり、腰痛、手足の関節が痛むが上位の自覚症状となっていました。これらと比較すると HIV 陽性者では、体のだるさや不眠が多く、Futures Japan 第 1 回調査結果・第 2 回調査結果においても最も気になる症状として上位に挙げられていました。

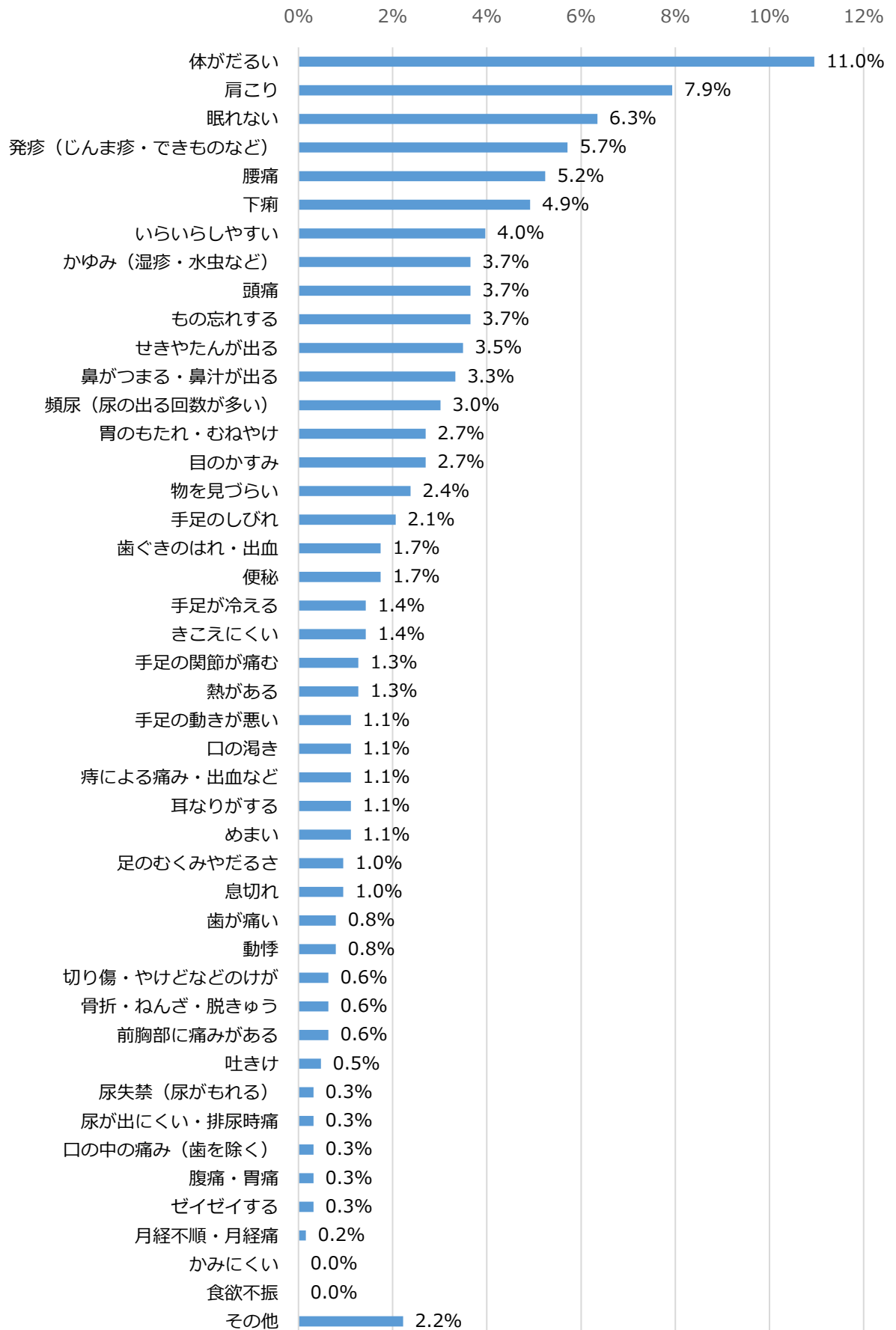


図2-10 最も気になる症状 (n=630)

■ 現在の健康状態

現在の健康状態については、59%が「よい／まあよい」と回答し、29%が「ふつう」、12%が「あまりよくない／よくない」と回答していました。

Futures Japan 第1回調査結果・第2回調査結果と比較して、「よい／まあよい」の割合は増加傾向にあり、「あまりよくない／よくない」は減少傾向にありました。

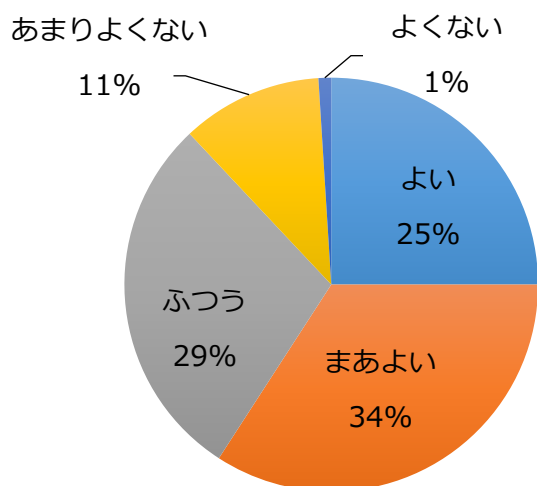
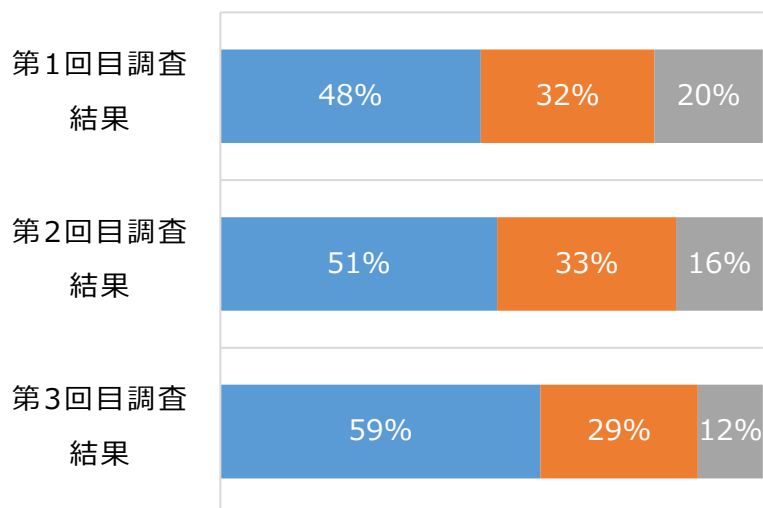


図2-11 現在の健康状態 (n=908)



■ よい/まあよい ■ ふつう ■ あまりよくない/よくない

図2-12 「現在の健康状態」の

3回の調査での推移